

合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第 I 項 生活科学部 食物栄養科学科 食物科学 専攻

出身高校名 金城学院高等学校

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は中学、高校とキリスト教の学校で学んできたため、大学もキリスト教系に進学しようと思っていました。また受験が近づくなか、生まれ育った場所とは違う土地で様々な経験を積みながら学びたいと思うようになりました。そうしたなか同志社女子大学が国際観光都市である京都に所在することや、「食」への多角的なアプローチを実践できる大学であることを知り、どうしてもここで学びたいと思い志望校に決めました。

- (2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

3年生になる頃には志望校を絞っていたものの当初は一般入試を想定していました。3年生の夏になり受験対策に本腰を入れるべく入試ガイドを確認した際、AO入試を知り、条件を満たしていることがわかった為AO入試の受験を決めました。AO方式入学者選抜を受験することにした理由は、合格のチャンスは一度でも多い方が良いと思ったことが最大の理由です。

- (3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

高校での活動としては、宗教科主催のボランティア活動に参加したことを中心にアピールしました。これらの活動は「食」について学びたいという私自身の動機にも深く関わりましたので、その時に感じたこと、その後の自分にどのように影響したかなどについて共感をしていただけるように丁寧に説明することを心がけました。

- (4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

手書き文字に自信がなかったため、心を込めて清書を繰り返しました。特に、文字のサイズや濃淡を揃えることに注力しました。志望理由書等についてはこれまで自分なりに考えてきたことを両親や先生にお話ししながらまとめて文書化していきました。文書化してからは繰り返し声に出しながら文章を練り直し、先生に何度も添削をしていただきました。

〔面接〕

私は緊張をしやすく、面接に対して苦手意識を持っていました。学校や塾で面接の練習を繰り返すなかで少しずつ克服できたと思います。緊張している時こそ相手の話を聞くことに集中することが大切だと気が付きました。ただ、やはり初対面の方と話すのは苦手でしたので面接官の方を高校の先生だと思って話しました。

- (5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私の場合、AO入試の準備期間が1ヶ月程しかありませんでした。AO入試は高校の先生の協力がなければ進められないうえ、その間も高校の定期試験や行事もあります。周囲の迷惑にならないようAO入試は日程に余裕をもって準備することをお勧めします。準備を通して、自分の考えを文にまとめ、大学進学後の計画を立てられたことは得がたい経験だったと思います。